

## 発達心理学

## 副題：青年・成人期の発達

《担当者名》○金山裕望 (kaneyama@hoku-i-ryo-u.ac.jp) 大倉雄一

## 【概要】

人の発達は成人になって終わるわけではない。本講義では、大人への移行期である青年期から人生の終わりまでの発達について論じる。青年期以降では、人の発達は社会・文化・歴史との絡み合いを避けて通ることができず、その中で、発達上の問題も生じる。また、大人の発達は、家族形成や労働を通じて、次世代育成が大きな課題となり、子どもを含む次世代の発達と重層的に論じる必要がある。人の発達を幅広い視点で捉え、現実の問題解決につながる発達の視点の獲得を目指す。

## 【学修目標】

青年期以降の発達の特徴を把握する。

青年期以降の発達を社会・文化・歴史の中でとらえる視点を身につける。

現実の問題を発達の視点から論じることができる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	公認心理師のための発達心理学理論を理解する。	金山 裕望
2	社会性の問題	非社会性や反社会性の概要について理解する。	金山 裕望
3	社会性の問題	社会性の問題に対する支援について理解する。	金山 裕望
4	親としての発達	結婚および家族形成の過程について理解する。	金山 裕望
5	親としての発達	養育行動やそれに伴う問題、支援について理解する。	金山 裕望
6	知能指数、知能の構造	知能に関する理論を概説するとともに、代表的な知能検査であるWechsler検査、K-ABC、ビネー式検査等について理論的背景を学ぶ。	大倉 雄一
7	キャリア理論(1)	パーソナリティ・特性因子論アプローチに関連するキャリア理論を概観する。	大倉 雄一
8	キャリア理論(2)	発達論・トランジションに関するアプローチに関連するキャリア理論を概観する。	大倉 雄一
9	青年期の発達	「疾風怒濤な時期」と言われる青年期の発達に関する諸理論について概説する。	大倉 雄一
10	成人期の発達	社会の中での立ち位置が確立されていく時期である成人期について概説する。	大倉 雄一
11	中年期の発達	変化の多い時期である中年期の危機、発達課題について概説する。	大倉 雄一
12	老年期の発達	円熟社会的離脱、活動持続、補償を伴う選択的最適化などについて概説する。	大倉 雄一
13	高齢者の心理社会的課題と必要な支援	加齢のメカニズムや、加齢に伴う心身の変化について学ぶ。さらに社会的離脱、補償を伴う選択的最適化についても考えていく。	大倉 雄一
14	老年期の臨床的問題の理解と支援	認知症、日常生活動作、介護、被介護に関する諸問題について学ぶ。	大倉 雄一
15	発達支援	自閉症スペクトラム、ADHD、限局性学習症等の非定型発達や、可視的差異、社会的養護について学ぶ。	大倉 雄一

## 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

## 【アクティブ・ラーニング】

導入している

**【評価方法】**

各講義における課題（20%）および定期試験の結果（80%）を総合して評価する。

**【教科書】**

適宜プリントを配布する。

**【参考書】**

老年心理学 下仲 順子/著（培風館）  
高齢者心理学 権藤 泰之/編（朝倉書店）

**【備考】**

金山担当回は対面で、大倉担当回はオンデマンド形式にて講義を実施する。  
欠席回数については各自で責任を持って管理すること(欠席回数についての問い合わせには原則応じない)。

**【学修の準備】**

日頃から、ニュース等に注意を払い、青年期以降の発達について興味を持ち、現代社会の動向の中でとらえるようにする。  
予習として参考書または前回の講義資料を熟読し、青年期以降の発達について学んでおくこと（80分）。  
復習として講義内容を見直し、関連書籍を図書館で借りて、理解を深めておくこと（80分）。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

DP3.心理学の基礎やそれらを応用発展させた心理科学と周辺諸科学に関する知識・技術を習得している。  
DP2.豊かな人間性・自立性・創造性・協調性等を身につけている。

発達の枠組みで人生の緒段階を捉え(CP3)、自立した人と日常と社会・文化・歴史との関係を考える(DP2)。  
上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

**【実務経験】**

金山 裕望（公認心理師）、大倉 雄一（公認心理師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

公認心理師としての臨床・研究・社会的貢献の成果を反映させた講義内容となっている。